

アイデア生成における情報探索行動の特徴分析

Analysis of Information Seeking Behavior on Idea Generation

学籍番号：201521611

氏名：寛長 萌

Moe KANCHO

物事の改善や問題解決など、今日では一般の人々であってもアイデアを生み出すことが求められる機会が増加している。アイデア生成においては、自身の持つ知識など内的な手がかりに加え、外部の情報による外的な手がかりが重要だとされている。外的な手がかりの入手方法としては様々な手段が考えられるが、近年ではサーチエンジンを使った探索が情報を得る手段として一般的になっている。そこで本研究では、アイデア生成に取り組む際の情報探索行動の特徴を明らかにし、アイデア生成における情報探索支援のありかたを考察することを目的とする。アイデア生成における情報探索行動の様子が明らかになれば、よりよいアイデアを生むための情報探索支援につながる可能性がある。

手法としては、14名の実験参加者を対象に、サーチエンジンで情報探索を行いながら、身近な問題を解決するためのアイデアを考えるタスクに取り組ませる実験を行った。特にクエリの発行回数に着目し、その多寡により探索行動やアイデアに影響があるかを検討するため、実験参加者を、クエリ発行を意識的に多くもしくは少なく行う2つのグループに分けた。そして、タスク中の情報探索行動の分析と、生成されたアイデアの流暢性、柔軟性、独自性の評価を行った。

実験の結果、全体的な行動様式としては、一度閲覧したページは見直さず新しいページを次々と閲覧して多くの情報を見ようとする傾向などが見られた。クエリ発行回数については、多寡を操作しても、閲覧ページ数やその内容には違いが見られなかった。また生成されたアイデアに関しても、いずれの評価項目においても大きな差はなかった。原因として、使用するクエリのパターンが固定化され、検索結果として抽出される情報に偏りがみられたことが挙げられる。

今回得られた結果と関連研究での知見から、アイデア生成における情報探索には、新たな気づきを促し、より探索範囲が広がるクエリが選択できるような支援が必要だと言える。

今後の課題としては、ユーザの特性や探索における行動意図の考慮、より詳細な実験設計の検討などが挙げられる。

研究指導教員：宇陀 則彦

副研究指導教員：松村 敦